

⑧運行ルートへの要望
 通勤や通学 買い物・利便性を重視したルート
 医療福祉の利便性を重視したルート
 町内の主要施設への利便性を重視したルート
 観光の利便性を重視したルート

合計	13	54	27	4	698人
生産年齢層 (0～64歳)	24	50	18	5	220人
前期高齢層 (65～74歳)	9	59	27	4	228人
後期高齢層 (75歳以上)	5	55	36	3	157人

⑨地域ごとの発言内容

	朝 (通勤・通学時間帯)	昼	夕 (通勤・通学時間帯)
主要観光地	通学目的の路線型	観光者対象の路線型	通学目的の路線型
中心市街地		買い物	
山間地北部		買い物、医療	
山間地東部		サロン活動、買い物	
		デマンド型	

⑩ワークショップの様子

まとめ

今回のワークショップでは、地域特性の高い要素やルートを把握することができました。「通勤・通学」について、小中学生の通学での利用を希望する意見が多い一方で、通勤については議論されなかったことから、通学に特化したルート設定が必要だと考えられます。また、町内施設については、サロン活動のための利用が多いことがワークショップにより判明しました。このため、サロン活動が開催される施設を考慮したルートを設定する必要があると考えられます。

【みなさんの考えた運行プランについて】
 ワークショップで出た意見をもとに考えられる運行プランは3つ考えられます。なお、このプランはワークショップで出た意見のみを基準にしており、実証実験や本格導入時のプランとは異なる可能性があります。

(1)デマンド型(自由経路ミーティングポイント型)
 サロン活動や地域施設などの施設は町内に点在して

帯で運行形態をはっきり分けることで、利用者の混乱を避けようという意見が挙がりました。
 D班の山間地北部では第1回目では様々な利用目的が挙がりましたが、議論を重ねた後に高齢者へのコミュニケーション支援と小中学生の通学の2つに絞られました。
 E班の山間地東部では運行本数は少なくても、山間部の奥深くまで入り込み、交通弱者である学生・高齢者の通学・買い物・病院に利用できる公共交通を要望していました。

今年度の予定
 今年度には「路線型」「デマンド型」の実証実験を行う予定です。予約方法や利用方法については後日改めて説明会の場を設けさせていただきます。
 報告会時に使用したプレゼンテーション資料は町公式HPから閲覧することができます。
 (URL=http://www.town.nagatoro.saitama.jp/plan/koukyo_koutsu_houkoku/)

⑪デマンド型の違い

自由経路ミーティングポイント型

運行ルートなし
 停留所あり
 自宅最寄りの停留所から
 目的地最寄りの停留所まで乗車

自由経路ドアツードア型

運行ルートなし
 停留所なし
 自宅から目的地まで乗車

います。運行ルートは定めず、停留所のみを巡回することで、様々な目的地に柔軟に対応できます。
 (2)デマンド型(自由経路ドアツードア型)
 特に山間地は住宅が点在し、かつ坂が多いため、停留所まで徒歩での移動が難しく、今後さらに増加すると考えられる高齢者へのサバイバ性を高めるために、停留所を定めず、出発点から目的地までを公共交通1本で結びます。
 (3)時間帯により運行形態を変えるハイブリッド型
 通学の安全性を確保するためには通学に特化した運行形態が必要ですが、デマンド型交通は予約してから到着まで時間を要するため、突発的な需要に対応することが難しいと考えられます。そこで朝夕は予約不要の路線型、昼は利便性の高いデマンド型で運行することでそれぞれの長所を活かします。